

# 田中康夫

今月の憂いト

日本の防衛と外交能力から、  
円安経済を礼賛する「保守」、  
高等教育や学問のあり方、  
『33年後のなんくり』まで！

船が行き交う海を臨む『横須賀美術館』での呆談。  
その前に、偶然行われていた防衛大学の  
開校祭に立ち寄った田中、浅田両氏。  
自衛隊員でもある学生の戦闘訓練を見学しながら、  
日本の防衛、外交、経済、教育を憂えた。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

# 浅田彰

# 憂

# 談呆国憂

season 2 VOLUME 54

## 防衛大学の開校祭を見物。 真の軍事力や外交とは？

浅田 浦賀水道を望む横須賀美術館に来たついでに、たまたま近くの防衛大学で行われてた開校祭なるものをのぞいてみたら、戦車やヘリコプターの登場する戦闘訓練があったり、各国の留学生が郷土料理の屋台を出してたり、なかなか派手だったね。卒業式では、みんなが帽子を投げ上げ、嬉々として表門から出て行く陰で、任官拒否した学生は裏門から寂しく去っていくらしいけど(笑)。

田中 実は防衛大学校、あるいは自衛隊は、逆に周囲の連中によって

最頂の引き倒しに  
なっている気が  
するよ。弁証法  
とは対極の視野  
狭窄な「保守」  
が、アメリカに  
とっても悩ましい  
最頂の引き倒しとして日  
本に存在しているのと似ている。



浅田 本来、軍というのは国際的な視野をもっているし、無駄な戦争はしたくない。第二次世界大戦で連合軍最高司令官だったドワイト・アイゼンハワーが米大統領を辞めるとき、「軍産複合体」の膨張に警告を發した。それによって無駄な軍備拡張と戦争に引きずり込まれかねない、と。本物の軍人はそういう冷静さを持ち合わせてるものだけだね。

田中 ストレスがたまっているサラリーマンやコンビニは、肩がふれただけで喧嘩をふっかける。プロの親分は泰然自若。そんな些細なこととやかく言わないものな

だけだ、その親分のまわりの連中がよかれと思って動いてしまい、面倒なことが起こってしまう。

浅田 安倍晋三首相自身がまさにチンピラそのもの。中国や韓国に対して日本が弱者であるかのように(あるいは野党に対して与党が弱者であるかのように)ヒステリーを起こして食ってかかる。吉田茂や、安倍の祖父の岸信介は、むしろ日本が強者だと思ってるから、可哀相な弱者には頭の一つでも下げたというやれつて感じだったのに。

田中 APEC(アジア太平洋経済協力会議)で習近平国家主席と25分間の会談を行ったと喧伝されているけど、通訳を交えてだから実質10分程度。バラク・オバマ大統領は2日にわたって計10時間。彼の差は大きい。なのに、米中は問題山積だから長時間だったと報じる日本のメディアまで出現するとはイヤハヤ。だったら、日中首脳



の共同会見も共同声明もなかったのはどうしてよ。二百歩譲って、会談と呼ぶには最低でも1時間は必要でしょ。開催の前提となる4項目を記した事前合意文書と称する内容だって向こうが一枚上手。

浅田 尖閣諸島をめぐる領土問題の存在を事実上認めただけで、ほぼ中国の恩恵通りでしょう。

田中 あえて靖国という単語を記さなかった点も中国の深謀遠慮。しかも、その文面をアメリカも望んでいたと。百田尚樹セン

末にオランダのウイレム・アレキサンダー国王夫妻が来日した。その直前にフラン

ス・ティーマー・マンズ外相が会見を行い、「河野談話」を評価する一方、在インドネシアの数十人のオランダ人女性が強制連行されて日本軍人の慰安婦となった白馬事件に関し「強制売春そのもの。自発的な売春行為にあらず」と強調した。宮中晩餐会での国王の挨拶でも直接的ではないにせよ遠回しにそうした過去にふれ、天皇もそれを理解していた。なのに、日本のメディアは報じない。奇しくも7年前の安倍政権時にオランダ下院は謝罪要求決議を採択している実に悩ましい問題なのに。

浅田 そう、朝日新聞の慰安婦報道に誤りがあったからって、慰安婦問題

がすべて不当な言いがかりであるかのようになっているのはおかしい。アペノミクスも異常な金融緩和による円安誘導で輸出企業を儲けさせてただけだけど、それって日本の資産価値を下げることで、極端に言えば、日本の資産を中国がいくらでも買取できることになっちゃう。横須賀の米軍基地が見える土地を中国人が買ってるって非難して右翼は、円安で国を安売りしちゃいかんって声を上げるべきじゃないのか(笑)。

田中 アメリカがそろそろ量的緩和をやめて言い出したときに、日本はさらなる量的緩和に打って出た。しかも、消費増税の第二段階を先送りするらしく、財政危機の解決にまたひとつ疑問符がついた。このままでは、ある時点で一挙に円や日本国債への

信認が崩れることにもなりかねない。

とはいえ、消費増税は経済状況によって中止できるって法律に書いてあるんで、その是非を国民に問うために衆議院を解散するなんてのはまったく筋の通らない話。内閣改造後にスキヤンダルが続出して足もとがふらついた、それで仕切り直したいってだけの、身勝手さきわまりない話だよ。

田中 「羊頭狗肉」を糊塗する「朝三暮四」解散。いずれは増税するんだもの。なのに「消費税は上げません」と同一スローガンを自民党と共産党が掲げて大政翼賛な「国共合作」の師走選挙が展開されるとは(苦笑)。「消費税増税を先送りし、アペノミクスの成果を問う」らしいけど、増税しても失速しないためのアペノミクス & 黒田バズーカだったんですよ。必ず「勝てる」と豪語した戦争が



と豪語した戦争が敗戦で終わったなら、敗軍の將は兵を語らず、黙って退くもの。それでこそ歴史に名を残すノーブレス・オブリージュの「英断」なのにな。

## シエイクスピアより観光英語？ 職業教育と学問。

田中 高等教育に人文科学なんて不要だと言わんばかりの「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」を文部科学省が設置して、日本航空の再生ならぬ迷走に携わった富山和彦がこんなアホ呆な資料を配っている。大学で学ぶべきは、「文学・英文学部はシエイクスピアや文学概論ではなく、観光業で必要

な観光業で必要

となる英語、地元の歴史・文化の名所説明力。経済・経営学部はマイケル・ポーターや戦略論ではなく、簿記・会計、弥生会計ソフトの使い方。法学部は憲法や刑法ではなく道路交通法、大型第二種免許・大型特殊第二種免許の取得。工学部は機械力学や流体力学ではなく、トヨタで使われている最新鋭の工作機械の使い方」だと。移民を年間20万人入れて100年後も人口1億人維持ダイジョウビと大本営発表計画を元・日銀副総裁だった岩田一政が経済財政諮問会議の分科会で配ったのと同じオツムの具合（苦笑）。

浅田 首切りによる「合理化」を「企業再生」って言い換えてるだけの経営者らしい、浅薄きわまりない考えだね。一見何の役にも立たないように見えることを徹底的に研究する人がいるからこそ、学問が進歩し、後から役に立つものが生まれてくるわけだ。公教育や公的研究支援はそのためにこそあるんだ。このあいだノーベル物理学賞を受賞した青色LEDの開発だってそう。それに対してすら、2002年にニュートリノの観測に成功してノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊が半ば皮肉を込めて言っていたよ、「僕のやっつることなんてまったく役に立たないから、こんなに役に立つことをやっつてる人は尊敬しますよ」と。実はまったく役に立たないことを追究するのが学問であって、しかし、それが最終的にはすべてに効いてくる。

田中 富山の提言と平仄を合わせて安倍首相は5月のOECD（経済協力開発機構）閣僚会議で、「だからこそ私は教育改革を進めています。学術研究を深めるのではなく、社会のニーズを見据えたもつと実践的な職業教育を行う。そうした新たな枠組みを高

等教育に取り込みたいと考えています」って。その前段には「袋小路に入ってしまったという学問ではない」と前置きしているんだけど、文科省の役人がこれを一國の首相に言わせているとしたら、ゆとり教育以上の度し難さ。教養課程に問題ありというなら、そのあり方を変えればいい。なのに、単なる否定とはいやはや、ゼロサム的な頭でしかない。

浅田 職業教育なら専門学校でいいし、ネット上のオープン・コースも増えてきてる。国がやるべきことは、むしろ、最低限の教養、つまり知的なグラウンドを、みんなが共有できるようにすることなんだ。大学紛争の頃、丸山真男や宇沢弘文なんかが提案したように、むしろ、大学4年をすべて教養教育にあて、そのあと大学院や専門学校で専門教育をするようにしたほうがいい。

#### 田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に「なんとなく、クリスタル」で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

でフランス語の原書を読んで、フランス語の歌を歌う学生時代を過ごしたように、そういう時間こそが大切なんだよ。

売担当者が普通の英語能力を養うことは大切ではあるんだけど、それとこれとは全然違う。三浦朱門や曾野綾子、百田尚樹に象徴されるオツムは「保守」じゃない、単なる愉快犯の破壊者だよ。

浅田 首相時代にフランスに行つて、フランスワ・ミッテラン大統領（当時）に「人間は考える葦だ」とフランス語で言った、と（笑）。

浅田 ステイヴィヴ・ジョブスみたいなインヴェーターが1人いれば残りの100万人はその後をついていけばいいって考え方だね。本来の保守はそういうのをいちばん嫌うはずなんだよ。

田中 なのに、曾野綾子の旦那で教育課程審議会会長だった三浦朱門は、「落ちこぼれに手間ひまをかけたせいでエリートが育たなかった。だから日本はこんなで結構。戦後50年落ちこぼれの底辺を上げることにはばかり注いできた労力をでできる者を限りなく伸ばすことに振り向ける、100人に1人でいい、やがて彼らが国を引っ張っていく。限りなくできない非才、無才には、せめて実直な精神だけを養っておいてもらえばいい」だってさ（苦笑）。もちろん、全員がシェイクスピアを読めなくてもいいし、販

田中 アルベルト・アインシュタインみたいな人物が出てくる必要はある。でもそれは、彼らのような貧困な発想の社会では誕生し得ないんだよ。

田中 確かに。ナンバースクールに入れたかった中曽根康弘が、でも、旧制静岡高校

リコー会長時代に経済同友会の代表幹事を務めた桜井正光も、「現時点で必要な人材を、その人材が要求する金額で採用するとなれば契約社員のようなかたちになり、それだけでも新卒一斉採用は崩れるしかないのです。後はロボットと末端の労働力ですが、賃金にこれほど差があるのでは申し訳ないけれど東南アジアの労働力を使うことになるでしょう」だって。何世紀前の経営者だよ。以前の経済同友会は富士ゼロックス会長だった小林陽太郎のような見識の人物が集う場だったのね。

浅田 言ってる本人たちが自分はエリートだと思ってるんだから滑稽だよ（苦笑）。外資に買収されたらお前らが一番にクビ

役はまったく追究するのが学問であって、しかし、それが最終的にはすべてに効いてくる。（浅田）

それは最終的にはすべてに効いてくる。（浅田）



音楽だって、  
当時は大人の会話を楽しむ  
コミュニケーションの  
触媒だったけど、

## 今はコミュニケーションを 遮断するものに。(田中)

になるんだっての。

田中 そう言えば、アメリカ・フロリダ州で2人の牧師がホームレスにご飯を配っていたことが条例に反するという理由で逮捕された。でも、彼らは当然のことをしているだけだと今後も配り続けると言っている。ホームレスが働けるような環境づくりや職業教育を行っていくのが当たり前なのに、極めてティーパーティー的な排除の条例がアメリカ各地で可決している。明日の日本も、いや今の日本もそうした風潮を後追いでいるんだ。

浅田 格差が開きすぎた現代の世界ではないかと、ところでそういう揺り戻しも強まっている。カトリックでも、今のローマ教皇フランシスは、むしろそういう救貧活動なんかに積極的だしね。日本はそういう流れに取り残されてるような気がするな。

### 時の流れに何を思う？

### 『33年後のなんとなく、クリスタル』

浅田 ところで、『33年後のなんとなく、クリスタル』がいよいよ発売されるね。

田中 11月25日だから、『ソトコト』が発行されるときには全国の書店に並んでいるかな。浅田さんをはじめ、なかにし礼さん、高橋源一郎さん、壇蜜さん、福岡伸一さん、ロバート・キャンベルさんら10人の方々が推薦文を寄せてくださった。この10人の名



前を見て一瞬ひるんだお客の心の隙間にだけ込む。虎の威を借る商法で売ってくださった。浅田さんや菊地成孔さんも書いてくれたけど確かに物語は「時間」が主題なんだよね。1982年に「笑っていいとも！」が始まって、僕も最初の3年半、出演していたけど、スタジオアルタの楽屋でタモリさんやプロデューサーの横澤彪さんに「自動車電話は便利です。いつでも連絡を取れるし、昨日は出合い頭のタクシーとバイクの事故を119番しました」と言ったら、そんな黒塗りの重役がつけているようなものを、贅沢だったしなめられたよ。そんな

### 浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。  
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。  
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。



な時代に出た『なんくり』から33年。学生時代は渋谷のハチ公前で待ち合わせをした相手が30分遅れても、バツくれられたのか、事故に遭っているのか、分からなくてドギマギした。でも、今はスマホですぐに連絡が取れる。逆に夜中に届いたラインを未読のまま中学生が登校したらクラスでいじめられる。自由になったのか、束縛されているのかわからなくなった33年。音楽だって、当時は大人の会話を楽しむコミュニケーションの触媒だったけど、今はコミュニケーションを遮断するものになってきている。昔は編集者が原稿を取りに来たけど、今や顔を見たこともない編集者と、電話で最後

まで話すことすらなくメールだけで単発原稿のやり取りをするようになった。33年前あなたは何をしましたか」と問いかける小説でもあるかな。

浅田 89年の天安門事件のとき、FAXで情報を送って支援しようなんて言っていた。FAXが普及して海外ともやりとりできるようになったのが大きな変化だったんだね。

田中 出国前に終わらなかつた短編小説を機内で書いてもパリの空港から日本へ送る手段がなかった。FAXがあるのは市内のインターコンチネンタルホテルだけ。ミラノへの搭乗便を変更して、パリ市内まで往復して原稿を送ったけど、1枚1000円以上もして、それだけで数万円もかかっちゃったのが懐かしい。

浅田 それ以前、イタリアにいた塩野七生は、スイスの郵便局がイタリアでやっているサーヴィスを使って、それでも途中でなくなることもあるから、原稿のコピーをとって3通送るようにしてたって言ってたな。95年の阪神・淡路大震災のときはインターネットを活用しようとしたものの、まだまだ普及してなかった……。

田中 それが今や人口よりも携帯電話の台数が多い日本だもの。表参道で撮ったパノラマ写真を本の帯にレイアウトしているんだけど、表側は安藤忠雄が設計した曇りガラスで覆われた表参道ビルズ。ところが一瞬、2014年の寒々しいシャッター通りみたいに錯覚する。裏側は、当時はまだ日本法人もなかったルイ・ヴィトンのブチックと明るい自然光のケヤキ並木なんだ。路駐している車もホンダ。この光景が80年代の表参道を想像させるから不思議なものだね。書店で見かけたら手に取ってみてください。